

二葉 東京支部だより

魂の永久のふるさと

東京支部長 木下早苗



東京支部会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にて、ご活躍のことと存じます。

平成十八年の定期総会には多くの会員の皆様の出席を頂き、盛会裏に終わることができました。母校によせる熱き思いを感じた素晴らしい総会でした。反面会場の都合で出席をお断りせざるを得なかった方が出たこと、不自由な思いをさせてしまった方が出てしまったことは大きな反省点として残りました。ここに紙面を借りてお礼とお詫びを申し上げます。

今年には母校の創立百周年の年にあたります。十九年定期総会は、東京支部もお祝の気持ちを諏訪に向けて発信していきたいと思えます。前回同様多くの会員のご出席をお待ち申し上げます。

さて、価値観の多様化している現在、同窓会活動について「時代にあった運営改革を」の声が高まっており、いかに新しい形態へ変えていくかがここ数年の大きな課題

となっており、規約・内規の改正や見直しを始め、同窓会改革にむけての努力が少しずつ進められています。

東京支部の活性化は、同期会の組織化と活動が土台となっています。同期会の中で、これ等の点を多めに語り合い、幹事会・総会に反映させて頂きたいと思えます。

同窓会に関わるようになって、高校時代には何げなく歌っていた校歌を、じっくりと味わうようになりました。

健やかに万象さめて

甲斐信濃飛驒の高嶺ゆ……

歌うたびに故郷の山々の連なりや澄んだ空、風の冷たさまで蘇り心は高校生のあの頃に帰って行きます。そして最後に

いくそたび吾等帰りに

新しき命を汲まん

魂の永久のふるさと……

と歌いあげています。選び抜かれた歌詞、日本語の美しさに最も感動するところです。

同窓会も「魂の永久のふるさと」です。綿々と受け継がれてきた東京支部の活動を通して、新しき命を汲んでいって頂きたいと思えます。そして、母校の百周年をご一緒にお祝いしましょう。

平成18年度 東京支部 役員



諏訪二葉高等学校同窓会
笠井 嘉代子 会長



諏訪二葉高等学校
一ノ澤 澄夫 校長

平成19年 東京支部総会のお知らせ

日 時 平成19年5月29日(火) 10:30~15:30
会 場 日本青年館
4F ホテル宴会場「アルデ」(元東洋軒)
☎ 03-3475-2525
講 演 と 竹村靖子氏 (声楽家)
コンサート 演題「歌と生きる」
会 費 5000円 (昼食パーティー)



- 記録 石川美紀子 (高24回) 副支部長 小口せつ子 (高16回)
- 記録 吉川喜美枝 (高24回)
- 会計 西村 直子 (高19回)
- 会計 五味 順子 (高19回) 支部長 木下 早苗 (高15回)
- 記録 江川 直子 (高24回) 副支部長 北村 幸子 (高15回)
- 副支部長 佐々木雅子 (高16回)
- 会計監査 杉村ちえ子 (高17回) 竹村さえ子 (高17回)

平成十八年
総会報告
十八年度副支部長
北村幸子(高校15回)

平成十八年五月三十日(火)日本青年館において東京支部総会が二八九名の参加で開催されました。信州からは、一ノ澤校長先生、笠井同窓会会長、小口副会長、鮎沢先生、小菅先生、立石先生、角田先生がご出席くださいました。校歌、会歌、「信濃の国」等を会計の平林順子さん(高校18回)伴奏、記録の石上美保さん(高校23回)指揮のもとに懐かしく歌いました。

江原支部長から「先輩、後輩の縦糸と同期会の横糸を、しっかりと織り重ねていくことが重要だ」という挨拶がありました。

第二部は、大先輩である作家の藤原ていさん(高女27回)の長女藤原咲子先生の講演『わが母藤原ていを語る』でした。著書「父への恋文」「母への詫び状：新田次郎、藤原ていの娘に生まれて」に関連したエピソードや家族に対する心境等が語られました。

第三部茶話会では、昨年諏訪の本部総会で評判だった四十年前の二葉高校映画部制作の映画「夏休みの歌」を上映。伊藤一枝元支部

長(高校12回)も出演されていました。旧校舎、ボンネットバス、その当時の先生等、懐かしい場所・場面・顔などに往時を思い出された方々も多かったのではないのでしょうか。

高女三五回生への花束贈呈を、会計の平林さんのピアノをBGMに行いました。代表の安藤さんのご挨拶に、私達後輩も花束を頂けるまで元気でいようと思ってきました。来年は高女三六回の皆様が多数ご出席くださることを願っております。

今回は、第二部、第三部が人気を呼び、参加申し込みを途中からお断りする事になりました。また、会場設営等でお手伝い頂いた十四回生、十五回生の幹事の方々は、会場に入り切れない為一階のレストランでの昼食となってしまう、折角同窓会に来ながら先生方や皆さんと一緒に会食が出来ませんでした。

アンケートにご協力いただき有り難うございました。

議事については、「よかった。(時間・内容・いろいろな意見が出たこと)」「楽しみにしていた講演は内容が大変よく、感激した。」「映画には懐かしい場面がありとても嬉しかった。」等の記述がありました。

盛り沢山過ぎたのではないかと、いろいろ意見もありました。

平成17年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部決算報告

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

1. 本会計

〈収入の部〉 (単位：円)

項目	予算	収入	備考
1 前年度繰越金	2,051,424	2,051,424	
2 維持費	1,650,000	1,651,160	振込1,273,160(延1,386名)、現金378,000(延384名)
3 寄付金等	0	111,500	会員より
4 雑収入	31	31	貯金利息
収入合計	3,701,455	3,814,115	

〈支出の部〉 (単位：円)

項目	予算	支出	備考
1 総会講師謝礼・お車代	120,000	120,000	
2 会場費用・諸経費	110,000	56,748	総会資料・案内印刷費・会場機器代等
3 会報作成費	170,000	144,662	東京支部便り「二葉」第10号
4 弔慰金	10,000	11,460	弔文レタックス
5 役員通信費・交通費	137,000	102,050	通信費37,000円、交通費65,050円
6 役員会費用	142,000	150,763	役員会6回分
7 幹事会費用	250,000	229,450	幹事会2回分
8 送料・通信費	330,000	268,839	総会案内資料・宅配便・葉書代等
9 印刷・コピー代	100,000	87,598	資料・封筒印刷・紙・コピー
10 事務用品	15,000	36,698	封筒等
11 渉外二葉関係	80,000	76,800	本部総会交通費、歴代支部長会補助、旧役員慰労会補助
12 同窓連	66,000	38,000	東京同窓連・南信同窓連
13 雑費・予備費	20,000	5,375	ビニール袋・百周年CD等
支出小計	1,550,000	1,328,443	
14 同窓会基金積立金	50,000	50,000	
15 次年度繰越金	2,101,455	2,435,672	
支出合計	3,701,455	3,814,115	

2. 東京支部同窓会基金

(単位：円)

項目	予算額	実行額	備考
1 前年度繰越金	2,498,000	2,498,000	
2 寄付金等	50,000	50,000	
合計	2,548,000	2,548,000	次年度繰越金

※総会会計報告

(単位：円)

収入

- ・会費(5000×238人) 1,190,000
- ・本部より会場費 10,000
- ・ご祝儀 5,000
- ・本会計より 176,748

合計 1,381,748

支出

- ・シダックスフードサービス会食代 1,166,550
- ・講師謝礼 120,000
- ・諸経費 95,198

合計 1,381,748

上記の通りご報告いたします。
平成18年3月31日
会計係 鈴木 れい子 ㊟
平林 順子 ㊟

上記は会計監査の結果間違いありません。
平成18年4月27日
会計監査 田中 みどり ㊟
春宮 みづほ ㊟



高女35回生へ花束贈呈

※活動内容はP6へ掲載

わが母・藤原ていを語る

藤原 咲子 先生



はじめまして、藤原咲子です。

私は諏訪二葉出身ではないのですが、まわりに、母、祖母、叔母など八人ぐらい二葉出身の人達が出て、なにかこの二葉の同窓会の中に入ってもいいような感じでおります。

では、母のを中心に話させていただきます。

私は引揚げの時の一年間、約十ヶ月間ミルク、母乳など何もなくてマクワウリの汁とか大豆の上澄み、あかぎという雑草をゆがいてその上澄みとかを飲まされて逃避行、北朝鮮の山を母のリュックに入れて、博多に着いた時には、私の横にぴったりと小さな木の箱桶が用意されていて、目を開けたまま目玉が動いていない、体が冷たいということ、母が博多港で泣き崩れるという場面が『流れる星は生きて』の最終章にあり

など思います。

その後引揚げてきて、たくさんのおじやおばの協力のおかげで育ったわけなんです。けれど栄養失調だった私は、体は回復して

も頭の中まで

はうまいこと
いかないとい
うことで、家
の中に閉じ籠
もっていました。

そこに母が三
年間病床につ
いてしまった
んです。

母は三年間
病と闘い、そ
の母の側には
近寄れない寂
しさからか、

ただひたすら
父の帰りを待
つ毎日だった
んです。で

すから自然に
父を恋しく思
うことが激し
くなってきた

す。それが最
初の作品の『父への恋文』となっ
たわけなんです。

私は小学校六年生の時、初めて『流れる星は生きて』を読みました。家に来る新聞記者の方々

の私への問いかけから『流れる星は生きて』に何か秘密があるに違いないと思って、それまでは怖くて読めなかつたんです。中学を受験するちょっと前に読

みまして衝動的に

死のうと思いま
した。本の中に「ま
だ咲子は生きてい
る」というのが何
回か出てくるんで
すね。それから、

「背中の子を犠
牲にして二人の兄
を生かす」その決
断に母が逡巡する
んです、何回か。

それにシヨックを
うけたんですね。
それから、「背中
の咲子が生きてい
ること、こうして
生きていることが
必ずしも私にとっ

て幸せとは思えな
い」と書いてある
私が今日まで生か
されているのは母
の愛情があつたか
らこそと解つては

いますけれど、十二歳の時はやは
りシヨックで多量の薬を飲みまし
た。

私が『母への詫び状』を去年書
いたきっかけは、母の認知症です。

『父への恋文』を書いたと同時に母にもごめんさいをいわなきゃいけないと思って書いたわけなんです。目の前にいる母をながし

ろにしたら、幸せなんて掴めつこ

ないと思つたんです。それで、目の前にいる朦朧とした母と旅をしようということで、認知症の初め頃から、母と一緒に一〇〇回ほど伊豆の温泉へ行きました。お母さんのこと大好きよと母に甘え、母に伝えたいことばかり伝えました。

母と旅行している時に、母のふとした動作、ふとした仕草の中に寂寥感を見てとりました。その時、六〇歳で夫を亡くしている母は、寂しかったんだと思いました。

今年一月で八八歳を迎える母は、今、緑濃い武蔵野の有料老人ホームで、車椅子の生活をしています。今年の夏、私はひとり母が歩いた引揚げの道―中国東北部から北朝鮮へと歩いてきたいと思

つています。



講師 藤原 咲子

講師プロフィール

一九四五年、父・新田次郎（本名・藤原寛人）と、母・藤原ていの長女として、満州国新京市（中国長春市）に生まれる。

立教大学文学部を卒業後、東京教育大学、北京師範大学などで学び、現在、中国語教師。

著書に、「父への恋文」「母への詫び状」がある。

活躍する同窓生

洋子さんに学ぶ

推薦者

牛山道子 (高校19回)

今、国際的にも個人的にもとても活躍されているハルツォーク洋子さん。あちらの国、こちらの国と飛び回っています。

洋子さんのご主人は、外交官。そしてドイツ人なので、会話はほとんど英語とドイツ語だそうです。休日、天気が悪く、在宅の時には、一日中俳句と短歌を作っていて、そんな時は、次から次へと作ってしまうそうです。

慣れてはいらつしやるそうですが、新任地では、一年目は特に親しい友だちもいないので、家に籠もりがちの日々が多く、そんな中一九九〇年(ルクセンブルク)から、想いを短歌や俳句に託し、朝日新聞の俳歌壇に投稿し続けているそうです。葉書一枚に一旬しか



書けないのですが、彼女は毎月八十句ほど投稿しているというのですから、並大抵ではありません。たくさん作品がありますが、中でもドイツのユダヤ人収容所で作った句や歌には、感動して思わず涙が出ました。近々、本を出されるそうですから楽しみです。

また、日本に帰国した折には、ハンセン氏病の元患者さん達が住んでいる東村山市の多摩全生園、草津の栗生楽泉園等をよく訪れ、元患者さんと交流されています。二〇〇〇年から二〇〇四年までは、ご主人の任地は東京でしたが、今は、韓国にお住まいで、韓国でもハンセン氏病患者のいる特別な島へもいらつしやられたそうです。

人に歴史あり。人生六〇年近くになれば、誰にもいろいろあることがあるとは思いますが、洋子さんには、ドイツ人のご主人との出会い、ご主人が外交官になるまでと、若い頃から、ちよつと変わった興味深いお話があり、何度聞いても感心したり笑ったりです。

概略をお伝えしますと、ご主人と知り合われたのがご主人が学生の時。外交官になるまでは、洋子さんが働いて家計を支えたそうで、彼女はご両親に勘当までされたことがあるそうです。

結婚前は、英国航空のステュワーデスとして働いていらつしや

ましたが、ステュワーデスになったのは、ご主人に会いに行くためだったというのも、いかにも洋子さんらしいと思います。

当時の航空会社では、ステュワーデスは結婚すると退職しなければならなかったそうですが、洋子さんはその制度に疑問を感じ、同僚達の先頭に立ってストライキをし、英国航空で、既婚で搭乗したステュワーデス第一号なのだそうです。その意気込みに脱帽です。

最後に、洋子さんの作品を紹介いたします。ささやくに大きすぎたる白き息 (ルクセンブルク) 労働と罪を表わす石積み (ドイツ) 手押しの車ユダヤは罪か

劇作家 故岸田理生さん

推薦者

小口せつ子 (高校16回)

劇作家であり演出家である「岸田理生」は岡谷出身の林寛美さんのペンネームです。

私が「岸田理生」が林寛美さんである事を知ったのは林さんが大腸癌で亡くなられたことを知らせる新聞記事からでした(二〇〇三年六月二十八日永眠)。林さんが「岸田理生」のペンネームで、演劇界で大活躍をしている事は知りませんでした。諏訪二葉16回生に演劇界で大活躍され、多くの作品



を残されて永眠された「岸田理生」こと林寛美さんがおられたことをここに紹介させて頂きます。

林さんは一九七四年に当時のアングラ劇場の中でも主流を行く演劇実験室「天井桟敷」に主宰である寺山修二に誘われて入団、文芸部に所属、寺山修二との共同作業で数多くの戯曲を手掛けました。

その中の一つに「身毒丸(しんとくまる)」の戯曲があり、この戯曲は蜷川幸雄による演出で一九九五年には武田真治と白石加代子、一九九七年には藤原竜也と白石加代子で公演されました。この作品は藤原竜也と白石加代子主演でロンドンのバービカン劇場での公演が実現し海外でも大変高い評価を得ました。一九八四年からは岸田事務所十楽天団を主宰し、女性の官能を通して歴史や国家を批評する作品を多く発表。一九八五年、「糸地獄」で岸田国士戯曲賞を受賞、また一九八八年には男装の麗人・川島芳子こと清王朝の愛新覚羅親王の第14王女、愛新覚羅顯子の生涯をテーマにした戯曲「終

の棲家 仮の宿」で紀伊國屋演劇賞を受賞しております。「終の棲家 仮の宿」では演出も手がけました。「糸地獄」は林さんの出身地である岡谷の蚕糸の歴史、また「終の棲家 仮の宿」では川島芳子が戦前松本に在住し松本高等学校の学生であったことから、二つの受賞作品には信州との強い関係があります。

戯曲のほかテレビや映画の脚本も多く、寺山修二が監督した「さらば箱舟」や、山田詠美の小説を映画化した「ベッドタイムアイズ」をはじめとする「一九九九年の夏休み」「草迷宮」「ボクサー」などの映画脚本、「獄門島」「悪霊島」「本陣殺人事件」「悪魔の手毬唄」「Vの悲劇」「華岡青洲の妻」などのテレビの脚本も手がけ、また「実相寺昭雄のミステリーファイル」シリーズの監督も務めました。

林さんは短い生涯の中で岸田ワールドと称される美しい文体の膨大な作品を残されました。それらの作品は今後も他の人々の手によって上演されつづける事と思えます。皆さんが脚本家「岸田理生」の名を目にすることがございましたら、「岸田理生」は諏訪二葉の同窓生であることを思い出しただけいたらとおもいます。

最後に林寛美さんのご冥福をお祈りしつづ。合掌。

最後に林寛美さんのご冥福をお祈りしつづ。合掌。

「いちななかい」便り

小嶋千津子（高校17回）

二〇〇五年九月四日。今日は、お台場のホテル日航で同期会。わたしは、四〇年ぶりの初参加。

十三名の方々が出席し、にぎやかに談笑しながら、美味しいランチをいただく。海の見えるテラスのテイクタイムでは、遙か四十年前の高校時代に戻り懐かしくおしゃべり。そして、現在の暮らしぶりや趣味、孫の話に花が咲く。みんなそれぞれ上手に年を重ねておられ、よい刺激を受けました。

同期会だより

二〇〇六年の同期会は、武蔵野で昼膳をいただきながら語り合い、その後、同期の川合（吉田）優子ファミリーコンサートで、ヴァイオリンとピアノの美しい調べに酔いしれました。

今まで二年に一度同期会が開かれていたのですが、私のように家と仕事で目一杯の人が多かったと思います。還暦を迎えた私たちはこれからの二年間は、東京支部を支える立場でもあります。これを機会に更に絆が深まり、それぞれの生活が一層豊かになることを願っています。



いちご会（一五会）

石崎靖子（旧姓竹村）（高校15回）

我々高校十五回生は、会の名をいちご会と名付け、三十数年前より毎年六月初旬の日曜日を恒例とし現在に至っております。今年も同期の木下早苗、北村幸子両氏が東京正副支部長となり、総会には同期生十数名が協力参加致しましたので、期日が間近ということもあり、十月十五日に変更し実施致しました。いちご会は約九十名が在し、都内、八王子、横浜、湘南

埼玉、千葉等の地域毎に持ち回りで会を運行しています。今年も東京都内が係となりましたので、江戸浅草に決め十数名の参加をえて行いました。雷門近くの「浅草マノス」という老舗のロシアレストランで会食、その後各々浅草寺参り、散策、歓談、問屋街巡り等、楽しく賑やかな一日を過ごしました。

た。幸い天候にも恵まれ、来年は八王子の皆さんへのバトンタッチで再会を約束し散会致しました。還暦も過ぎ、定年を迎えても、まだまだ第一線で活躍している方々も多く、高齢者社会での親の介護等様々な環境の中、皆逞しくお互いに励まし合って生きております。二葉魂は健在です。



私達の同期会

武田裕美子（高校22回）

二十二回生の同期会第一回の集まりは、平成元年七月でした。幹事さんのご尽力により五人集まり懐かしい話に花を咲かせることができました。

当時の支部長さんから、二十二回生を取りまとめて同窓会費を集める協力を是非してほしいと要請があり、五味さんの働きかけのおかげで、私達の同期会が始まる事になりました。それから毎年五、

十五人位の出席で、年一回の会が開かれています。

十九年度は、母校の創立百周年の記念行事に合わせ、故郷の同期の方々の交流を深めたいという意見が出ており、今後は、その為の準備をしていきたいと思っています。

私達の年代は、家庭でも、職場でも、責任のある立場にあり、色々と大変な時期ではありますが、時には、あの諏訪二葉の校舎を思い出し、青春時代の思い出を語り合うのも良いではありませんか？皆さん、是非一度は顔を出しませんか？



東京支部だよりと

同級生

青木武子（高女36回）

今年度久しぶりに幹事になりました。幹事会に出席すると、予期はしていたが高女36回卒は出席者の最上段に載っています。来年は



ひと頃比べると半数になった同期会。支部活動に大変熱心だった仲間です。

八十歳を祝って頂く年になります。その折り「第11号支部だより執筆依頼」の書類を頂きました。「11号」の文字が心に沁みました。十六年前私が支部長就任以来、支部会報の発行は私の悲願でした。会報発行の趣旨は、会員への支部費の還元として総会に出席されない方々に毎年の素晴らしい講師の講演や会員の活動等をお伝えすること。幹事に諮ると大部分は賛成、少々の反対。その時同級生が「よいと思ったら少々反対は気にしないで頑張りなさい」と背中を押してくれたのです。何故かわつと力が湧いた瞬間を鮮やかに思い出します。昭和25年以降の沿革史43年分をB5二頁分にまとめて挿入出来たのも同級生のYさんの働き。当時の役員協力の会員の寄付で「東京支部だより（当初の名称は「あゆみ」第一号）」は日の目を見ることが出来ました。

図書紹介

『食品の裏側』（東洋経済新報社）

阿部 司

食品添加物の元トップセールスマンが明かす食品製造の「舞台裏」が書かれている本です。近年「食の安全」に関心が高まっていますが、添加物の世界には消費者には見えない、知らされていない「影」の部分がたくさんあります。食品製造の「舞台裏」は普通の消費者には知りようがありません。想像することさえできないのが現状です。

本書は、そんな「裏側」を告発するはじめての本だと思います。

*廃棄寸前のクズ肉も三〇種類の「白い粉」でミートボールに甦る

*コーヒーフレッシュの中身は水と油と「添加物」だけ

*虫をつぶして染めるハムや健康飲料

知って驚くことがいろいろ書かれています。消費者としては、情報を得て知った上で、どんな食品を食べるか取捨選択していきたいと思えます。



イラスト・諏訪のり子（高校16回）

平成17年度東京支部活動内容

役員	支 部 長	江原美規子			
	副支部長	永田 福子	木下 早苗	北村 幸子	
	会 計	鈴木れい子	平林 順子		
	記 録	石上 美保	宇田川美和子	秦 礼子	
	会計監査	田中みどり	春宮みづほ		

年月日	事 項	備 考
6/9	第1回役員会	年間事業計画 役員役割分担
7/22	第2回役員会	第1回幹事会準備 本部理事会・同総連関係について 次期定期総会講演講師について等
9/15	第1回幹事会	17年定期総会会計報告、アンケート結果報告 17年事業の進行状況、会報発行計画について 維持費納入者拡大について 内規改訂、同期会活動報告
(H18)	歴代正副支部長会	現況報告と懇親会 (出席者 27名/於アルデ)
1/15		
2/3	第3回役員会	中間会計及び監査報告、内規改定について 第2回幹事会準備 次期定期総会について 卒業生へ支部入会の勧誘方法について
3/2	第2回幹事会	中間会計及び会計監査 内規改定について 東京支部だより第10号の披露 総会関連事項検討、次期役員(案)について
4/3	第4回役員会 (拡大)	役員・次期役員候補者・関連学年幹事による総 会案内・会報等の発送作業
4/27	第5回役員会 (拡大)	役員・次期役員候補者による総会準備、役員引 き継ぎ、会計監査
5/29	第6回役員会 (拡大)	役員・次期役員候補者による総会前日準備
5/30	平成18年総会	出席者 289名(会員 282名、来賓 7名)

・会報 東京支部だより「二葉」10号発行
 ・本部理事会出席6回、本部定期総会出席、本部親睦旅行参加
 ・南信同総連出席5回、東京同総連出席3回、南信同総連親睦旅行参加
 ・正副支部長4人会、臨時役員会随時実施

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます

(平成19年1月31日現在)

36	34	32	31	30	28	24	22	22	22	21	20	18	17	16	16	高女
西	宮	千	上	渡	西	小	牧	中	海	関	清	松	武	平	跡	矢
田	坂	葉	条	邊	川	口	野	村	老	水	尾	井	林	部	部	高
昭	道	敏	裕	芳	ふ	せい	は	ち	信	喜	恒	の	さ	栄	あ	多
子	子	江	子	子	じ	い	る	ゑ	子	代	子	ぶ	だ	子	や	勢
様	様	様	様	様	子	子	様	様	様	子	様	様	様	様	子	子
(平出)	(藤森)	(片岡)	(浜)	(五味)	(小口)	(小口)	(花園)	(花園)	(新村)	(小林)	(長崎)	(牛山)	(中村)	(花園)	(林)	(矢島)
H 18	H 18	H 18	H 18	H 17	H 18	H 17	不明	不明	H 17	H 15	H 18	H 17	H 16	H 18	H 18	H 17
・ 3	・ 9	・ 4	・ 12	・ 11	・ 6	・ 5			・ 3	・ 8	・ 3	・ 6	・ 4	・ 4	・ 1	・ 12

高校

13	12	10	10	9	7	7	5	3	41	39	38	38	37	37	37
湯	南	吉	木	原	小	高	高	五	小	小	五	井	溝	西	名
沢	山	田	内	信	林	島	嶋	味	松	笠	味	筒	口	村	取
法	津	利	幸	信	恵	あ	あ	綾	照	定	美	賀	一	園	久
子	磨	久	子	子	美	き	き	子	子	子	代	代	恵	子	世
様	子	子	様	様	子	様	様	様	様	様	子	子	子	様	様
(小林)	(桜畑)	(中山)	(伊東)	(原)	(鮎沢)	(狩野)	(鈴木)	(小池)	(中村)	(羽場)	(小口)	(矢島)	(河西)	(上原)	
H 16	H 17	H 18	H 17	H 17	H 17	H 17	H 18	H 18	H 17	H 14	H 17	H 17	H 17	H 18	H 18
・ 6	・ 8	・ 8	・ 2	・ 2	・ 12	・ 11	・ 11	・ 1	・ 11	・ 3	・ 10	・ 4	・ 2	・ 4	・ 4



本部定期総会のお知らせ

日 時 平成19年5月12日(土)
 会 場 RAKO華乃井ホテル
 ☎ 0266-54-0555
 講演講師 平島佐一氏
 (母校元教諭・記念誌編集部長)
 会 費 4500円
 申 込 本部事務局 ☎0266-52-9595

編集後記

多くの皆様のご協力を頂いて出来上がったこのたよりが、会員相互の橋渡しに少しでもお役に立てれば幸いです。

事務局だより

☆東京支部は年千円の維持費で活動しています。納入にご協力ください。

☆維持費は複数年度分まとめて納入できます。控えが領収書となりますので、何年まで納めたかメモして、大切に保管してください。

☆納入状況を知りたい方は各回生の幹事又は支部会計までお問い合わせください。